

平成 19(2007)年エイズ発生動向 概要

厚生労働省エイズ動向委員会

エイズ動向委員会は、3ヶ月ごとに委員会を開催し、都道府県等からの報告に基づき患者発生動向を把握し公表している。平成 19(2007)年 1 年間の発生動向について概要を取りまとめたので報告する。本年は HIV 感染者が 1082 件と初めて 1000 件を超えた。エイズ患者 418 件とあわせて新規発生件数は 1500 件で、前年より 142 件の増加となった。HIV 感染者、エイズ患者ともに増加の状況が続いている。

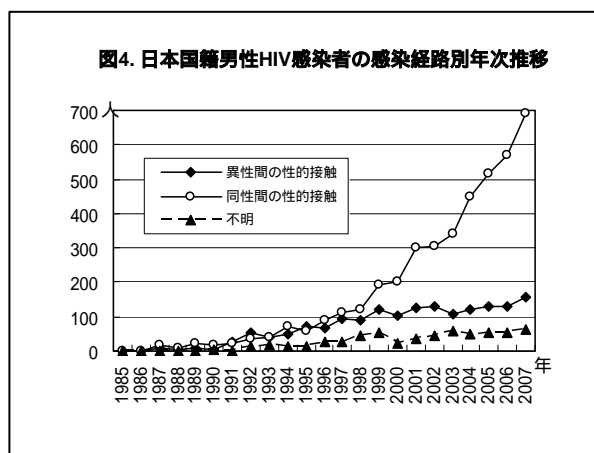
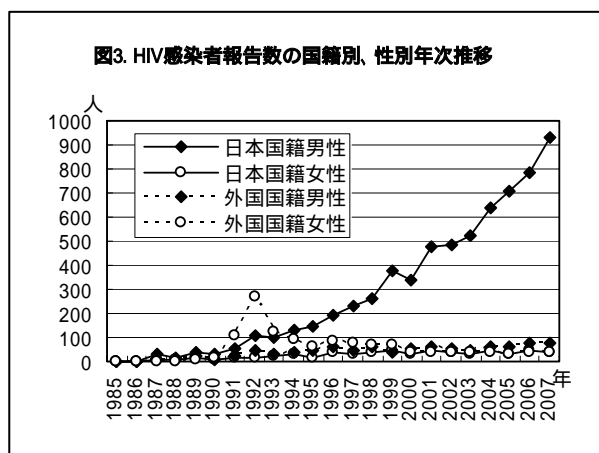
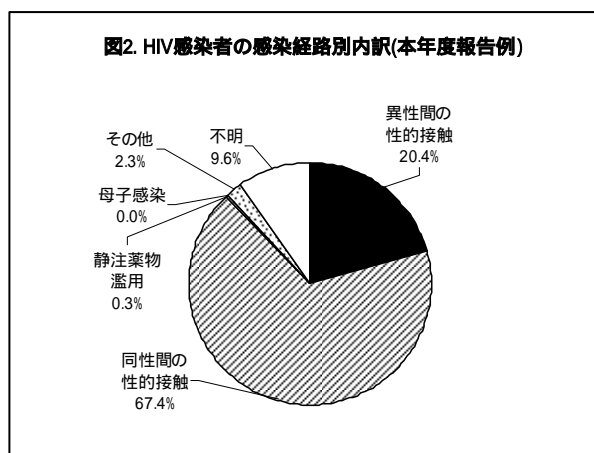
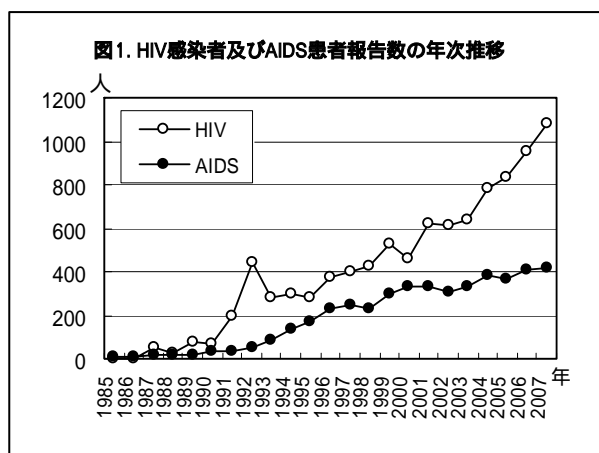
1. 結果

(1) HIV 感染者の報告数

平成 8(1996)年以降増加が続き、平成 19(2007)年は 1082 件と引き続き過去最高の報告数となった(図 1)。日本国籍例は 969 件で、このうち男性が 931 件と大半を占め、前年より 144 件増加した。日本国籍女性例は 38 件で前年より 11 件少ない。外国国籍例は 113 件で、このうち男性が 76 件、女性が 37 件で、経年変化はほぼ横ばいの状況にある。(図 3)。

(2) AIDS 患者の報告数

平成 19(2007)年は日本国籍、外国国籍合わせて 418 件で前年(406 件)より 12 件の増加であった(図 1)。日本国籍例は 365 件で前年(355)件より 10 件増加し、外国国籍例も 53 件で前年(51 件)より多い報告であった。日本国籍男性例は 343 件と前年(335 件)に比して 8 件の増加で、日本国籍女性例も 22 件と 2 件の増加であった。AIDS 患者は日本国籍男性例で増加が続き、他の国籍・性別報告例は横ばいの状況にある(図 9)。



(3) 感染経路

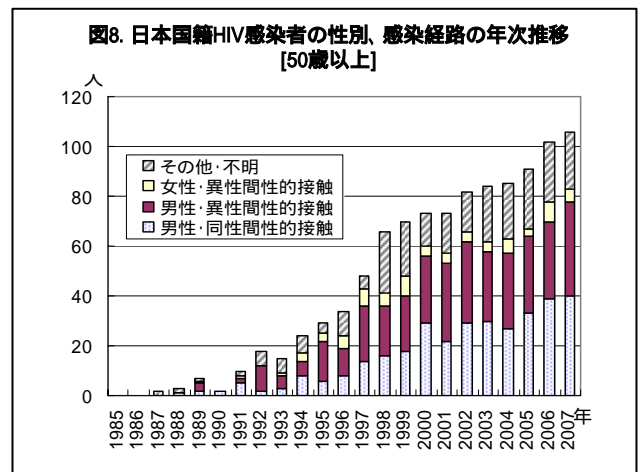
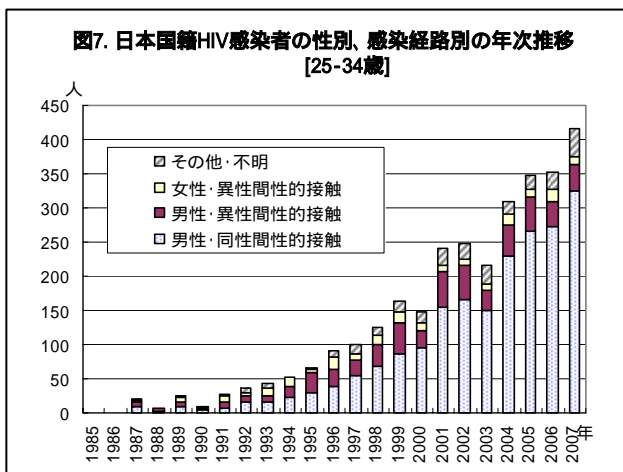
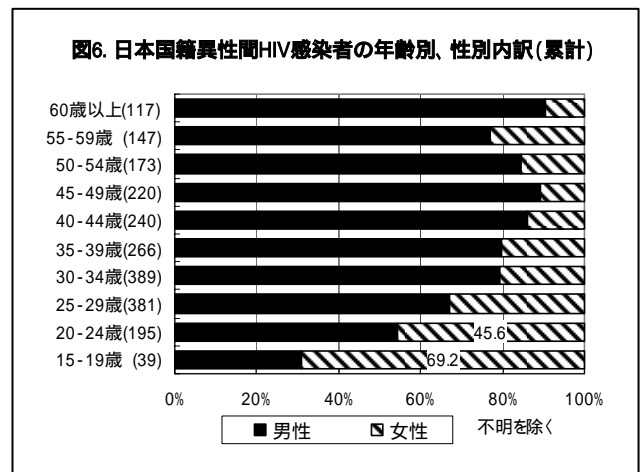
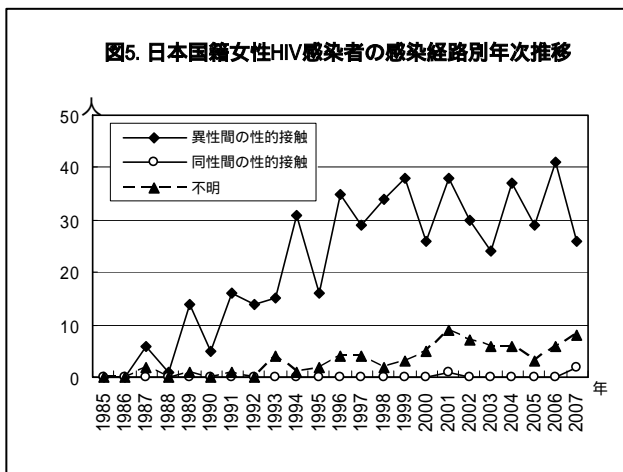
平成 19(2007)年の HIV 感染者報告例の感染経路は、異性間の性的接触が 221 件(20.4%)、同性間の性的接触が 729 件(67.4%)で、性的接触によるものがあわせて 950 件(87.8%)を占めた(図 2)。

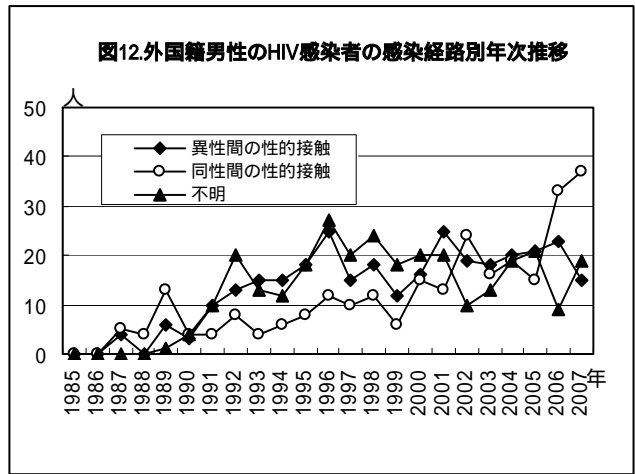
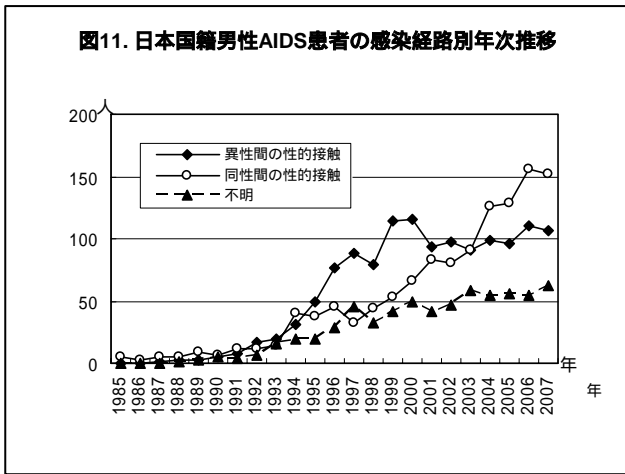
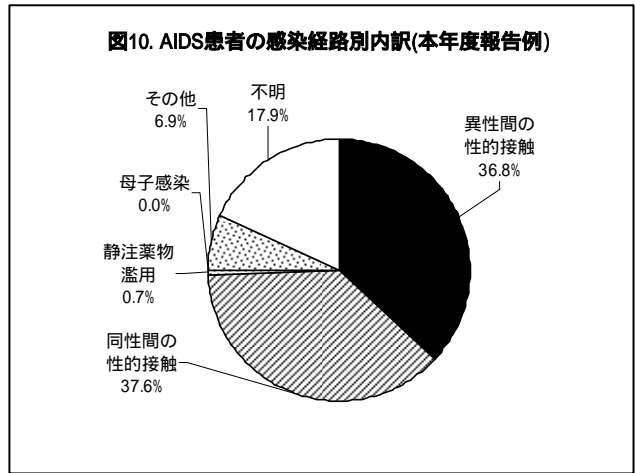
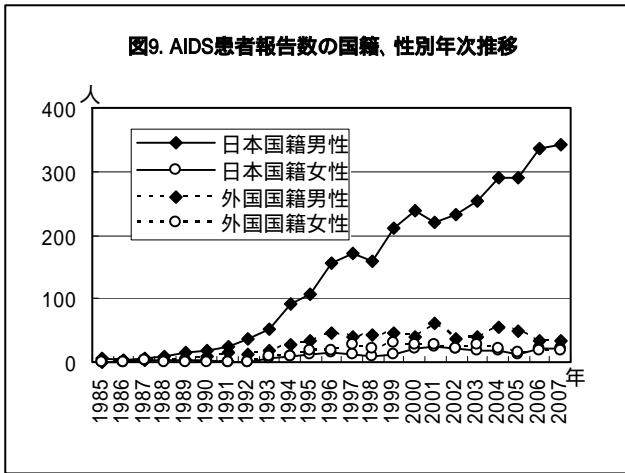
日本国籍例では、男性同性間の性的接触は 690 件で、前年(571 件)に比べて 119 件と著しい増加となった。また、異性間の性的接触は男性が 156 件(前年 132 件)、女性が 26 件(前年 41 件)で前年とほぼ同数であったが、経年的には微増傾向の推移であった(図 4、5)。

本年の HIV 感染例のうち、男性同性間の性的接触による感染は 15-24 歳の年齢層では 75.4%、25-34 歳では 78.6%、35-49 歳では 71.2%を占め、50 歳以上でも 37.7%と異性間の性的接触(35.8%)を超える割合であった(図 7、8)。なお、全年累計における日本国籍の異性間 HIV 感染者の性別構成を年齢階級別にみると、女性は 15-19 歳では 69.2%、20-24 歳では 45.6%を占め、男性割合の高い他の年齢層とは異なっている(図 6)。

本年の AIDS 患者報告例の感染経路は、異性間の性的接触による感染が 154 件(36.8%)、同性間の性的接触による感染が 157 件(37.6%)で、性的接触による感染は合わせて 311 件(74.4%)を占めた(図 9)。日本国籍男性例の感染経路を見ると、同性間性的接触は 152 件(前年 156 件)、異性間性的接触は 107 件(前年 110 件)で、いずれも前年とほぼ同数の推移であった(図 10、11)。年齢階級別にみると、日本国籍 AIDS 患者では 30 歳代、40 歳代を中心とした中高年齢層での報告であるが、60 歳以上でも増加傾向が見られる。

なお、静注薬物濫用や母子感染によるものは HIV 感染者、AIDS 患者ともにいずれも 2%以下にとどまっている(図 2、9)。





(4)外国国籍報告

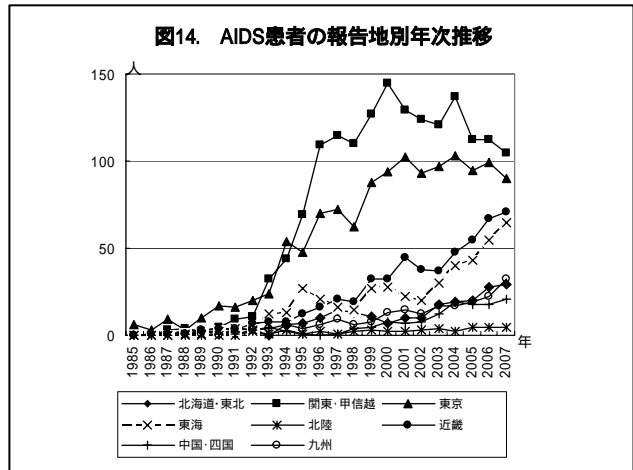
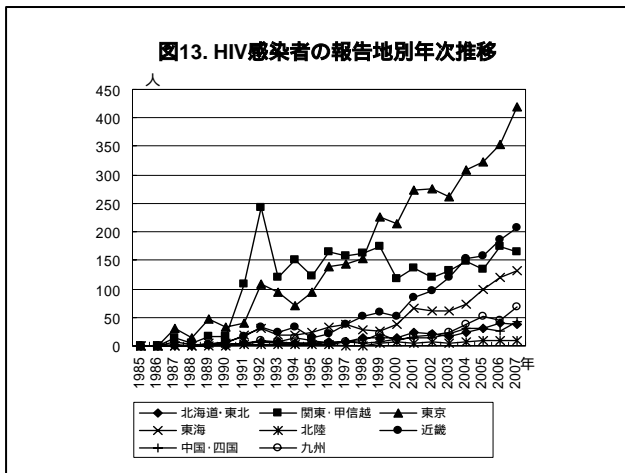
本年の外国国籍報告例は HIV 感染者では 113 件(前年 116 件)、AIDS 患者では 53 件(前年 51 件)と前年とほぼ同数の推移であった。HIV 感染者、AIDS 患者共に異性間の性的接触による感染例は増減を繰り返しつつ横ばいの状況にあるが、同性間の性的接触による感染例は HIV 感染者では増加傾向にあり(図 12)、外国国籍者への対策も強化する必要がある。

(5)推定される感染地域および報告地

HIV 感染者の推定感染地域は、全体の 87.7%(949 件)が国内感染で、日本国籍例(969 件)の大半(894 件、92.3%)を占めていた。AIDS 患者の推定感染地域は全体の 80.4%(336 件)が国内感染例で、外国国籍例でも国内感染例の占める割合が増してきている。

報告地では HIV 感染者は、東京都を含む関東・甲信越ブロックからの報告が多く、累計では 65.8%を占める。同ブロックの報告は 1996 年以降増加傾向にあり、特に東京での増加が著しく本年は 420 件となった。近畿ブロックからの報告数は 1998 年以降増加が続き、特に大阪府からの報告の増加が顕著で本年は 147 件となった。また、東海ブロックでは 2001 年から報告数が増加し、中国・四国、九州でも増加傾向にある(図 13)。AIDS 患者の報告地別分布は HIV 感染者とほぼ同様で、累計では東京都を含む関東・甲信越(64.9%)に集中している。これらの地域は経年変化では減少傾向にあるが、他の地域は増加傾向にある(図 14)。

本年報告数の上位 10 位は、HIV 感染者では東京都、大阪府、愛知県、神奈川県、千葉県、埼玉県、兵庫県、福岡県、沖縄県、静岡県で、AIDS 患者では東京都、大阪府、愛知県、神奈川県、千葉県、静岡県、兵庫県、福岡県、茨城県、栃木県、埼玉県、京都府であった。



2. まとめ

わが国においては、日本国籍男性を中心に、国内での性的接触を推定感染経路とする HIV 感染者、AIDS 患者報告例の増加傾向が続いている。感染経路では男性の同性間性的接触による感染例の増加が著しく、特に 15 歳から 49 歳までの HIV 感染者では同性間性的接触による感染例が 70% を超える割合で増加が続いている。なお、異性感性的接触による感染例では男性が微増傾向にある。

AIDS 患者では 30 歳代、40 歳代を中心とした中高年齢層での報告に加え、60 歳以上の年齢層でも増加傾向が見られている。

HIV 感染者と AIDS 患者を合わせた報告数はほとんどの地域ブロックで増加傾向にある。特に、これまで報告数が多かった東京都および関東・甲信越（東京都を除く）、近畿、東海地域に加え、中国・四国、九州ブロックの報告数も増加の傾向にある。

各自治体にあっては積極的な HIV 感染対策への取り組み、特に男性の性的接触を中心とした HIV 感染に対しては、改正されたエイズ予防指針を踏まえ、普及啓発・早期発見・早期治療に向けた対策、HIV 陽性者への相談等の支援などの対策を早急に進める必要がある。